

令和5年度地域防災リーダー育成講座「紀の国防災人づくり塾」カリキュラム

【和歌山市会場】 和歌山県勤労福祉会館プラザホープ

		第1時限目	第2時限目	第3時限目	第4時限目	第5時限目	第6時限目
第1日	8月27日(日)	10:00~10:20	10:20~12:20	13:20~14:50	15:00~16:00	16:10~17:10	17:20~18:20
		開講式 オリエンテーション	和歌山県の防災対策 県 危機管理局	和歌山県沿岸をくり返し襲う津波について 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 連携推進室 国内連携グループ長 穴倉 正展	災害医療 有田市立病院救急総合診療科 部長 島 幸宏	和歌山県の気象特性と防災情報 和歌山地方気象台 次長 辻 晶夫	和歌山県の洪水・土砂災害対策 県 河川課 県 砂防課
第2日	9月3日(日)	10:00~12:20		13:20~15:20	15:30~17:00	17:10~18:30	
		津波避難・避難所運営のワークショップ 県 危機管理局		津波避難・避難所運営の ワークショップ 県 危機管理局	災害時要配慮者の避難支援 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター リサーチフェロー ピニエイロ アベウ タイチ コンノ	性の多様性について 県 青少年・男女共同参画課 和歌山県の住宅耐震化対策 県 建築住宅課 家具類の転倒防止対策 県 危機管理局	
第3日	10月1日(日)	10:00~11:00	11:10~12:40	13:40~15:10	15:20~15:50	16:00~16:20	16:30~17:30
		津波のメカニズムと 南海トラフ巨大地震について 国立和歌山工業高等専門学校 教授 小池 信昭	防災と減災のむらづくり・まちづくり 和歌山大学 システム工学部 准教授 平田 隆行	災害犠牲者ゼロを目指すには、 自助力と共助力から 一般社団法人ADI災害研究所 理事長 伊永 勉	災害時のこころのケア 県 精神保健福祉センター	閉講式 紀の国防災人づくり塾修了証授与	防災士資格取得試験 (申込者のみ)
予備日	11月23日(木・祝)						

【那智勝浦町会場】 那智勝浦町体育文化会館

		第1時限目	第2時限目	第3時限目	第4時限目	第5時限目	第6時限目
第1日	10月15日(日)	10:00~10:20	10:20~12:20	13:20~14:50	15:00~16:30	16:40~18:00	
		開講式 オリエンテーション	和歌山県の防災対策 県 危機管理局	災害時要配慮者の避難支援 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター リサーチフェロー ピニエイロ アベウ タイチ コンノ	防災と減災のむらづくり・まちづくり 和歌山大学 システム工学部 准教授 平田 隆行	性の多様性について 県 青少年・男女共同参画課 和歌山県の住宅耐震化対策 県 建築住宅課 家具類の転倒防止対策 県 危機管理局	
第2日	11月12日(日)	10:00~12:20		13:20~15:20	15:30~16:30	16:40~17:40	17:50~18:20
		津波避難・避難所運営のワークショップ 県 危機管理局		津波避難・避難所運営の ワークショップ 県 危機管理局	災害医療 有田市立病院救急総合診療科 部長 島 幸宏	和歌山県の洪水・土砂災害対策 県 河川課 県 砂防課	災害時のこころのケア 県 精神保健福祉センター
第3日	12月3日(日)	10:00~11:00	11:10~12:40	13:40~15:10	15:20~16:20	16:30~16:50	17:00~18:00
		津波のメカニズムと 南海トラフ巨大地震について 国立和歌山工業高等専門学校 教授 小池 信昭	和歌山県沿岸をくり返し襲う津波について 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 連携推進室 国内連携グループ長 穴倉 正展	災害犠牲者ゼロを目指すには、 自助力と共助力から 一般社団法人ADI災害研究所 理事長 伊永 勉	和歌山県の気象特性と防災情報 和歌山地方気象台 防災管理官 鈴木 和男	閉講式 紀の国防災人づくり塾修了証授与	防災士資格取得試験 (申込者のみ)
予備日	1月14日(日)						

和歌山市会場（和歌山県勤労福祉会館プラザホープ）

	講座名	所属等	講師名	講座概要
8月27日(日)	1 開校式 オリエンテーション	県 危機管理局 防災企画課		
	2 和歌山県の防災対策	県 危機管理局	片家 康裕	南海トラフ地震などの地震・津波対策を中心に、和歌山県が進めている防災対策の取組について説明します。
	3 和歌山県沿岸をくり返し襲う津波について	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 連携推進室 国内連携グループ長	穴倉 正展	和歌山県沿岸は数千年以上もの大昔から、くり返し地震と津波に襲われてきました。その痕跡は現在でも沿岸の地形や地層に残されています。つまり、その痕跡を丹念に調べていけば、過去の地震や津波の実態を解明することが出来るのです。過去の現象を明らかにすることは、将来を予測する上でとても役に立ちます。本講座では最新の調査結果から明らかになった和歌山県沿岸の津波の歴史を紹介し、将来にどのように活かしていくべきかお話ししたいと思います。
	4 災害医療	有田市立病院 救急総合診療科 部長	島 幸宏	大規模な災害などで、突然かつ同時に多数の傷病者が発生したとき、いかに効率的かつ適切な医療を提供していくのか。災害発生時の緊急医療対応についてお話しします。
	5 和歌山県の気象特性と防災情報	和歌山地方気象台 次長	辻 晶夫	和歌山県は、頻繁に大雨による浸水害、土砂災害、洪水害が発生します。災害をもたらす自然現象の基礎知識、平成23年の台風第12号・平成30年7月豪雨・平成30年の台風第21号等による事例を紹介し、和歌山県の気象特性についてお話しします。また、住民避難に資するよう警戒レベルと対応させた「キキクル」など防災気象情報の活用についてご説明します。
	6 和歌山県の洪水・土砂災害対策	県 県土整備部 河川課、砂防課		和歌山県県土整備部で実施している防災・減災対策の概要や、水害や土砂災害から身を守るためのポイントについてお話しします。
9月3日(日)	1	県 危機管理局		和歌山県オリジナルゲーム「きいちゃんの災害避難ゲーム」をプレイし、グループで話し合います。
	2 津波避難・避難所運営のワークショップ			
	3			
	4 災害時要配慮者の避難支援	阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター リサーチフェロー 兼 神戸大学大学院工学研究科 研究員	ピニエロ アベウ タイチ コンノ	高齢の方、障害のある方や乳幼児など、災害発生時の避難に際して特に支援を要する要配慮者（避難行動要支援者）に焦点を当てて、地域の避難対策を検討する上で重要な課題について考えていきます。
	性の多様性について	県 環境生活部 青少年・男女共同参画課		性の多様性に関する基礎的な知識や、性的少数者の方々を抱える悩みや困りごとなどについて説明します。
	5 和歌山県の住宅耐震化対策	県 県土整備部 建築住宅課		地震に備えた住宅の耐震化の必要性を説明するとともに、耐震診断と耐震改修の方法及び支援制度を説明します。
家具類の転倒防止対策 ～家具固定のイロハ～	県 危機管理局 防災企画課		大きな地震が発生すると家具は凶器と化します。家具類の転倒による被害を減少させるため、その必要性や正しい固定方法等の知識や技術をお話しします。	
10月1日(日)	1 津波のメカニズムと南海トラフ巨大地震について	国立和歌山工業高等 専門学校 教授	小池 信昭	東北地方で甚大な被害を起こした大津波について、その被害のメカニズムを解説します。また、南海トラフの巨大地震の想定モデルについて、なぜそのような大きな想定になったのか、その経緯を説明します。
	2 防災と減災のむらづくり・まちづくり	和歌山大学 システム工学部 准教授	平田 隆行	大災害からどのように立ち直るのか、予測される大災害にどのように備えるのか…。災害とまちづくりの歴史、被災して得た教訓、そして復興まちづくりについてお話しします。阪神淡路大震災では被災直後の街の様子を、復興まちづくりでは、北但地震(城崎)や、東日本大震災、紀伊半島大水害など各地の事例を紹介し、「災害文化」や「事前復興」をキーワードに、和歌山での防災まちづくりを考えていきます。
	3 災害犠牲者ゼロを目指すには、 自助力と共助力から	一般社団法人 ADI災害研究所 理事長	伊永 勉	令和の時代は、地球温暖化による大雨災害や、頻発する地震から、犠牲者ゼロを目指すことです。高齢化の進行と、コミュニティの希薄化により、脆弱化する日本の防災力を向上するには、住民が生き残るための自助力を高め、生き延びるための地域の共助力を強化することが必須です。特に、増加する要配慮者のための個別避難計画策定等への、具体的な住民参加を促すために必要な地域の防災リーダーの役割を理解してもらいます。
	4 災害時のこころのケア	県 精神保健福祉センター		災害発生後、被災者は被災のショックや重大なストレスを受け、通常とは異なる心身の状態を経験します。被災者の心理状態の特徴と被災後の心のケアについての理解を深めます。
	5 閉講式 紀の国防災人づくり塾修了証授与	県 危機管理局 防災企画課		
	6 防災士資格取得試験 (申込者のみ)	日本防災士機構		

那智勝浦町会場（那智勝浦町体育文化会館）

	講座名	所属等	講師名	講座概要
10月15日(日)	1 開校式 オリエンテーション	県 危機管理局 防災企画課		
	2 和歌山県の防災対策	県 危機管理局	片家 康裕	南海トラフ地震などの地震・津波対策を中心に、和歌山県が進めている防災対策の取組について説明します。
	3 災害時要配慮者の避難支援	阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター リサーチフェロー 兼 神戸大学大学院工学研究科 研究員	ピニエイロ アベウ タイチ コンノ	高齢の方、障害のある方や乳幼児など、災害発生時の避難に際して特に支援を要する要配慮者（避難行動要支援者）に焦点を当てて、地域の避難対策を検討する上で重要な課題について考えていきます。
	4 防災と減災のむらづくり・まちづくり	和歌山大学 システム工学部 准教授	平田 隆行	大災害からどのように立ち直るのか、予測される大災害にどのように備えるのか…。災害とまちづくりの歴史、被災して得た教訓、そして復興まちづくりについてお話しします。阪神淡路大震災では被災直後の街の様子を、復興まちづくりでは、北但地震（城崎）や、東日本大震災、紀伊半島大水害など各地の事例を紹介します。「災害文化」や「事前復興」をキーワードに、和歌山での防災まちづくりを考えていきます。
	性の多様性について	県 環境生活部 青少年・男女共同参画課		性の多様性に関する基礎的な知識や、性的少数者の方々が抱える悩みや困りごとなどについて説明します。
	5 和歌山県の住宅耐震化対策	県 県土整備部 建築住宅課		地震に備えた住宅の耐震化の必要性を説明するとともに、耐震診断と耐震改修の方法及び支援制度を説明します。
	家具類の転倒防止対策 ～家具固定のイロハ～	県 危機管理局 防災企画課		大きな地震が発生すると家具は凶器と化します。家具類の転倒による被害を減少させるため、その必要性や正しい固定方法等の知識や技術をお話しします。
11月12日(日)	1 津波避難・避難所運営のワークショップ	県 危機管理局		和歌山県オリジナルゲーム「きいちゃんの災害避難ゲーム」をプレイし、グループで話し合います。
	2			
	3			
	4 災害医療	有田市立病院 救急総合診療科 部長	島 幸宏	大規模な災害などで、突然かつ同時に多数の傷病者が発生したとき、いかに効率的かつ適切な医療を提供していくのか。災害発生時の緊急医療対応についてお話しします。
	5 和歌山県の洪水・土砂災害対策	県 県土整備部 河川課、砂防課		和歌山県県土整備部で実施している防災・減災対策の概要や、水害や土砂災害から身を守るためのポイントについてお話しします。
	6 災害時のこころのケア	県 精神保健福祉センター		災害発生後、被災者は被災のショックや重大なストレスを受け、通常とは異なる心身の状態を経験します。被災者の心理状態の特徴と被災後の心のケアについての理解を深めます。
12月3日(日)	1 津波のメカニズムと南海トラフ巨大地震について	国立和歌山工業高等専門学校 教授	小池 信昭	東北地方で甚大な被害を起こした大津波について、その被害のメカニズムを解説します。また、南海トラフの巨大地震の想定モデルについて、なぜそのような大きな想定になったのか、その経緯を説明します。
	2 和歌山県沿岸をくり返し襲う津波について	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 連携推進室 国内連携グループ長	宍倉 正展	和歌山県沿岸は数千年以上もの大昔から、くり返し地震と津波に襲われてきました。その痕跡は現在でも沿岸の地形や地層に残されています。つまり、その痕跡を丹念に調べていけば、過去の地震や津波の実態を解明することが出来るのです。過去の現象を明らかにすることは、将来を予測する上でとても役に立ちます。本講座では最新の調査結果から明らかになった和歌山県沿岸の津波の歴史を紹介し、将来にどのように活かしていくべきかお話ししたいと思います。
	3 災害犠牲者ゼロを目指すには、自助力と共助力から	一般社団法人 ADI災害研究所 理事長	伊永 勉	令和の時代は、地球温暖化による大雨災害や、頻発する地震から、犠牲者ゼロを目指すことです。高齢化の進行と、コミュニティの希薄化により、脆弱化する日本の防災力を向上するには、住民が生き残るための自助力を高め、生き延びるための地域の共助力を強化することが必須です。特に、増加する要配慮者のための個別避難計画策定等への、具体的な住民参加を促すために必要な地域の防災リーダーの役割を理解してもらいます。
	4 和歌山県の気象特性と防災情報	和歌山地方気象台 防災管理官	鈴木 和男	和歌山県は、頻繁に大雨による浸水害、土砂災害、洪水害が発生します。災害をもたらす自然現象の基礎知識、平成23年の台風第12号・平成30年7月豪雨・平成30年の台風第21号等による事例を紹介し、和歌山県の気象特性についてお話しします。また、住民避難に資するよう警戒レベルと対応させた「キキクル」など防災気象情報の利活用についてご説明します。
	5 閉講式 紀の国防災人づくり塾修了証授与	県 危機管理局 防災企画課		
	6 防災士資格取得試験 (申込者のみ)	日本防災士機構		

受講申込書

令和5年度地域防災リーダー育成講座「紀の国防災人づくり塾」を受講したいので申し込みます。

ふりがな		年齢	歳
氏名		(令和5年4月1日現在)	
住所	〒		
勤務地 (住所が和歌山県外の場合のみ、県内の勤務地を記入)	和歌山県 _____市・町・村		
連絡先	電話		
	e-mail		
意思疎通支援 (必要があれば○をして下さい。)	1 手話通訳 2 要約筆記		
受講会場 (希望する会場番号に○をして下さい。)	1 和歌山市会場 (和歌山県勤労福祉会館プラザホープ) 2 那智勝浦町会場 (那智勝浦町体育文化会館)		
【任意回答】 自主防災組織での活動状況 (該当する番号に○をして下さい。)	1 活動している 2 活動していないが、今後、自主防災組織の活動に積極的に参加しようと考えている。 3 今後も活動予定はない。 4 その他 ()		
【任意回答】 受講動機	※市町村等の自治体に勤務の方は下に☑をお願いします。 <input type="checkbox"/> (自治体名:)		

○今回の申込によって取得した個人情報は、本人の承諾なく当講座以外の目的に使用することはありません。

○本講座の受講料は無料です。(ただし、防災士の資格取得に係る費用は別途必要。)